

令和4年度（2022年度）第3回南大沢中学校区地域づくり推進会議議事概要

日 時	令和4年（2022年度）9月17日（土） 9：30～12：00
場 所	南大沢中学校3階 家庭科室
出席者	参加者：飯田、磯田、伊與田、柿島、木村、佐藤、瀬谷、高津、高橋、田中（茂）、廣田、福澤 高齢者あんしん相談センター南大沢：青山 はちまるサポート由木：柏原 第一層生活支援コーディネーター：今泉 八王子地域 PAL-ETTE：黒田、矢部 未来デザイン室：今川、野田、橋本 環境政策課：峯岸 防災課：澤 デジタル推進室：倉田 （株）エックス都市研究所：松本、小市、田中
見学者	高齢者福祉課：富山 南大沢保育園保護者：久保田 南大沢中学校 学校運営協議会会長：廣瀬
配布資料	第3回南大沢中学校区地域づくり推進会議 資料1 地域づくりについて 資料2 南大沢中学校区ワークショップの記録 資料3 南大沢中学校区地域づくり推進会議でこれまでに出了地域課題等一覧 資料4 地域防災に関する取組 資料5-1 八王子市のゼロカーボンシティ実現に向けて 資料5-2 はちエコポイント 資料5-3 環境市民会議募集チラシ 資料6-1 八王子市デジタル・トランスフォーメーション（DX）推進計画【概要版】 資料6-2 DX とはなにか 将来ビジョン検討ワークシート

1 開会

未来デザイン室より挨拶。

2 議題

(1) 地域づくりについて

会議資料をもとに、未来デザイン室より地域づくりの考え方について説明。

(2) 地域の“ありたい姿”を深掘りしよう

会議資料をもとに、第2回南大沢中学校区地域づくり推進会議（以下「推進会議」という。）での議論を振り返り、第3回以降の取り組み方・役割、今回の議題と話し合いの進め方について確認し、今回の進行役（ファシリテーター）及び板書係をグループごとに選出した。

	進行役（ファシリテーター）	板書係
Aグループ	田中（茂）氏	柿島氏
Bグループ	飯田氏	高橋氏、福澤氏

続いて、“ありたい姿”の深掘りキーワード出し、深掘りキーワードの整理、“ありたい姿”の見直し、将来ビジョンの取りまとめを行った。主な意見は以下のとおり。

1) Aグループ

① 将来ビジョンの着眼点について

- ・ 昨年度の中学校区別ワークショップでありたい姿としてあがっていた「つながる」とは何か、まずはそこを明確にしていくことが重要ではないか。
- ・ 20年前は小学校の生徒数が多く、子どもを中心に住民同士がつながっていた。地域全体が盛り上がるのは子どもに関係することであったため、子どもが少なくなるとともにつながりもなくなった。⇒昔は、チラシ等を配布する際に、小・中学校に頼めばほとんどの家庭に配布ができたが、今は子どもが少ないので地域の一部にしか渡らない。

② 課題について

- ・ 子どもを中心としたコミュニティであった時代は、子どもから親世代までが繋がっていたが、その子どもが地域で少なくなった今、世代間の関わりが無くなってしまった。
- ・ 学生の視点で言えば、お互い干渉しなくて良いと思っており、他人とつながらなくても生活できるし、困らないのが現状のような気がする。大学生として多世代とつながるメリットがあるとすると、地域で活動したことが就職活動に活かせることが挙げられると思う。

③ あるべき論

- ・ 南大沢中学校区内全てに自治会があるわけではなく、南大沢だけの連合自治会もない。市にも協力してもらい、中学校区全体を包含するような組織が必要だと思う。
- ・ 多世代が集う場所があると、自然と交流が生まれるのではないか。

④ 「つながり」を生み出すために必要な取り組み方

- ・ 「大栗川キャンドルリバー」は、4つの大学のボランティアチームが参加している。学生の参加動機は、新旧住民が交流するコンテンツを作るために、決まりごとではなく自由に参加でき、参加者自身がイベントをつくっていくことを謳っているからかもしれない。
- ・ 大学生自ら地域活動に積極的に参加することは少ないので、大学のボランティアセンターなどに募集をかけると良いのではないか。

- ・ 情報過多の時代に情報を届けるために、例えば南大沢町会のように LINE で情報を届けることが考えられる。つながるための手法・仕掛け・仕組みの工夫が必要である。
- ・ 若者がイベントに参加することで、SNS 等で情報発信をしてくれるため、それをきっかけに参加者が増えるなど、地域へ還元されるものがあるのではないかな。
- ・ イベントや防災も住民同士がつながれるコンテンツになるのではないかな。

⑤ 「つながり」を実現していくために必要なこと

- ・ 防災訓練は地域全体で取り組めるものである。自治会未加入のマンション等は避難訓練に参加していないが、避難所が小・中学校単位なので、災害時に助け合うことができるよう、関わる機会を作っていく必要があるのではないかな。
- ・ 南大沢中学校区には高校がないため、高校生は中学校区の外に通学している。災害時等には、地域に住み、通学している中学生が一番の頼りになる。
- ・ 南大沢三丁目商店街のクリーニング屋が閉店してしまった。そういうところをコミュニティづくりのためのサロンのような場所として活用できると良い。
- ・ 大平公園で夏祭りを開催しているが、若者の参加が見られない。大栗川キャンドルリバーではたっくさんの大学生がボランティアとして参加していることから、取り組み方を参考にして、次回実施すると良いかもしれない。

2) Bグループ 主な意見内容

① 将来ビジョンについて

- ・ 「だれもがつながれる」というのは、子どもから高齢者、外国人等、だれもがつながりを持ち、楽しく暮らすことができる街であり、「アットホームマイタウン」がキーワードになると考える。
- ・ 次世代を担う子どもたちが心豊かに育つこと、高齢者はケアされるだけでなく、培われてきた経験やスキルを活かせる機会があること、またその経験やスキルを後世に継承し、受け継いだ側もつないでいくなど、どう未来を育てていくかが大事である。
- ・ 失敗しても大人が助けてあげられる地域の中で、子どもたちが様々なことにチャレンジし、体験できる環境があることで、未来の人材育成につながるのではないかな。
- ・ 防災や防犯においても、人と人がつながっていることで物事が早く進んだという事例があり、つながることでプラスに作用することが多い。
- ・ 「全世代」、「見守り」、「認め合い」、「相談所」、「遊び場」、「居場所」の6つがキーワードであり、それぞれのキーワードの必要性としては、次のことが挙げられるのではないかな。

全世代：親と先生以外の大人を知らない子どもたちがおり、全世代が参加できるイベントや場所が必要である。

見守り：高齢者の単身世帯など、気になる家庭の「見守り」が必要である。

認め合い：それぞれの生き方、生活の仕方を認め合う優しい街になると良い。

相談所：困った時に相談できる窓口がわかりやすくなると良い。

遊び場：子どもと大人と一緒に遊べる場所があると良い。

居場所：いつでもどの世代が来ても良い居場所が必要である。

② 現状・課題

- ・ 若者が夢を叶えられるようサポートが必要だと思うが、サポートしてほしいことについて若者の意見を聞きたい。
- ・ 様々な取組を行うにも資金面が一番の障壁となる。地域の企業を巻き込み、スポンサーになってもらうことも考えられる。愛知県春日井市において、同様の取組を行っているようだが、運営組織を「会議体」ではなく「株式会社」にし、副市長が役員になっている。今後、地域づくり推進会議をどういう組織体制にするか決めて動いていくことが必要である。
- ・ 企業が立地すると働く場ができ、子どもたちが大学を卒業しても南大沢に住み続けることができる。また、子どもたちの学習の場にもなりうるため、南大沢の中で人が循環するのではないか。企業を巻き込まないと、大きな将来像が描きづらい。市民から企業にアプローチするのは難しいため、市に頑張ってもらいたい。
- ・ 少子化等、不安な要素がある一方、南大沢に多くある団地の将来像が具体的に見えると未来に希望が持てるまちになるのではないか。
- ・ 高齢化は人だけでなく、団地も築 40 年を超えるものがある。住民ができることとしてハード面は無理でもソフト面で居心地が良く、子育てしやすい団地づくりができると良いのではないか。
- ・ 小学生は放課後子ども教室や学童があるが、中学生・高校生の居場所がないため、中学生・高校生のたまり場があると良いのではないか。
- ・ 高齢者にノウハウ・技術があっても生かせる場所がない。そうしたノウハウ等を生かせる機会があれば、生活に張り合いが出て活力につながる。

③ 手法について

- ・ 住民同士で支え合えるよう、情報などを視覚化することが重要。また、その情報を共有する際には年齢等によってアクセスしやすい手段が異なるため、リアルとバーチャルの両方でつながることができる環境を用意することが必要である。
(例) リアルの場合：拠点に掲示板を設置／バーチャルの場合：SNS、バーチャルの掲示板など
- ・ つながったらポイントが貯まり、そのポイントを子ども食堂等で使用できるといった地域通貨をつくれれば、“つながり”だけでなく地域経済の活性化や地域貢献にもなる。
- ・ 子どもたちも地域の一員として、役割を担ってもらえるのはどうか。例えば、南大沢について取材をして YouTube やラジオで情報発信をしてもらったり、祭りの運営に参加してもらえると良いのではないか。
- ・ 南大沢では祭りが多いため統廃合し、町会に任せきりにするのではなく、地域のつながりの中で人材を発掘して地域を盛り上げられると良い。
- ・ 未来に希望が持てるような情報発信ができると良い。
- ・ 団体同士で取組分野が近い場合は既につながりはできているが、分野が異なるとつながりがない。例えば、活動団体や技術をもつ個人のセールスポイントをまとめたカード等をサロンに設置し、つながりたい人や団体が、つながりやすくするためのコーディネートができる場があると良い。
⇒営利目的ではなく、地域の活性化につながる人材バンクがあっても良い。
- ・ 独居で引きこもっている方などが、地域と交流の機会があると良いのでは。子どもたちと挨拶ができる環境があるだけでも大事である。子どもにとっても顔見知りの人が多くなると安心感に繋がる。

- ・ 海外のクラブ活動は学校ではなく地域で行っており、そのクラブが交流拠点になっている。南大沢中学校区にもあると良い。
- ・ 東京都が南大沢をスマートシティの先行地域にしているため、ロボット特区にして荷物の運搬等の生活サポートにロボットを活用したり、5G の活用や災害時にドローンで緊急物資を運べたり、ハード面について行政側がサポートをしてくれることも考えられる。
- ・ DAO（分散型自律組織）という仕組みがあり、新潟県長岡市山古志で取り入れられているのだが、居住の有無に関わらず、お金を払うことで村の活性化の方向性について投票で決めていく仕組みである。こういうことを積極的に試してみるのも良いのではないか。
- ・ ビエンナーレのようなアートイベントの取組を街中でできると良い。

④将来ビジョン（案）

- ・ お互いを認め合わない摩擦が生じてしまう。
- ・ みんなが優しい気持ちを持ち、認め合うことが大切である。

⇒「認めあう優しいまち アットホームマイタウン」

3) まとめ

A グループと B グループで検討した内容を発表し、意見交換をした結果は以下のとおり。

- ・ 共通のキーワードとして、「多世代」、「多様な人とのつながり」が出ており、なぜつながる必要があるかという、「見守り」、「防災」、「助け合い」といった困った時に互いに声を掛け合える関係性が大切であるということが見えた。また、自分と関係する団体以外の地域団体の活動を知らないため、掲示板、SNS 等によって見える化し、いかに他団体同士がつながっていくかが重要である。将来ビジョンの一案として、「認めあう優しいまち アットホームマイタウン」が挙げられた。（エックス都市研究所）
 - ・ B チームの将来ビジョン案を仮置きし、次回以降のアクションプランの検討の中で、つながることによってどういう街にしたいかを検討すると良いのではないかと。両チームとも、団体の取組の見える化や情報が地域に行き渡る仕組みづくり等、具体的な取組に関する意見が出ていた。（エックス都市研究所）
 - ・ 手法や課題に関する意見は、次回以降のアクションプランの検討に役立つため、今回の意見をベースに検討できればと思う。将来ビジョンは、一案を仮置きとして事務局で整理して、次回の推進会議の中で紹介したい。その上で、第 6 回推進会議で振り返り、改めて議論してほしい。（エックス都市研究所）
- ⇒「つなぐ」というキーワードが出ているが、人と人、団体同士がつながるという意味に加え、「未来につなぐ、継承していく」という意味合いを踏まえてアクションプランを検討したい。

(3) 地域づくり推進計画の共通テーマについて

資料をもとに、「地域防災」「カーボンニュートラル」「DX」について市の担当課から説明した。説明概要と質疑の内容は、以下のとおり。

① 地域防災について

(説明内容)

- ・近年の地球温暖化の影響で、災害が激甚化している。市でも令和元年（2019年）の東日本台風や平成23年（2011年）の東北地方太平洋沖地震で土砂崩れや交通公共機関が止まるなど被害を受けた。
- ・南大沢中学校区周辺のハザードマップを見ると、浸水被害や土砂災害の恐れが非常に少ない地域であることがわかる。しかし、地震についてはどこでも起こる可能性がある。
- ・この中学校区周辺の課題として、この辺りはニュータウンであり新耐震基準のため家が全壊する恐れはあまりないと思う。しかし、家の中の物が崩れるなどして自宅での生活が難しくなり、避難所へ避難をしなければいけない可能性がある。また、南大沢は学校や大きい会社があるため、帰宅困難者についても考えておく必要がある。
- ・防災の基本として、自助、共助、公助がある。自助は、家具転倒防止をすることや備蓄をしておくなど、自分で自分の身を守ることである。共助は、町会ごとの自主防災組織などに所属し、地域で助け合うことである。公助は、ハザードマップの作成や被害想定検討など、行政が行うことである。
- ・公助は一般的に発災してから約3日後に動き出すことができる。したがって発災時には、自助と共助が重要である。阪神淡路大震災では、助かった方の7割が自助又は共助の取組みを行っていた。
- ・南大沢地域は、南大沢中学校、南大沢小学校、柏木小学校の3校で協議会を立ち上げ、防災訓練や災害発生時にどう行動するかを研究して取り組むなど、共助の取組みが他の地域に比べ進んでいる。
- ・南大沢地域の自主防災協議会の取組をぜひ推進してもらい、それを地域のみなさんと行政が協力のうえ、取組の方向性をマニュアル化し、計画としてまとめていただきたいと考えている。八王子市の地区防災計画の認定を受けていただくことで、他の地域に取組を広めることにもつながる。

(質疑内容)

なし

② カーボンニュートラルについて

(説明内容)

- ・昨今地球温暖化による影響で自然災害が増えている。地球温暖化は、温室効果ガスが年々増え続けていることが原因である。
- ・八王子市で排出される温室効果ガスのうち、90%以上が二酸化炭素である。家庭部門の二酸化炭素排出量が多く、これは熱需要、電気、自動車が必要な要因であり、様々な分野で対策をする必要がある。
- ・地球温暖化の影響を防ぐため取り組むべきこととしては、省エネによる削減、エネルギーの脱炭素化が挙げられる。市では、省エネ設備や再生可能エネルギー設備の導入（太陽光パネル等再生可能エネルギーの導入には補助制度がある）などを推進している。
- ・エコアクションポイントは、家庭における環境配慮行動の取組みを商品に還元する取組である。例えば、みどりのカーテンを設置することや市内で開催される地球温暖化に関する講座に参加すると、ポイントが付与される。集めたポイントは、様々な商品に変えることが出来る。
- ・政府は2050年までに二酸化炭素の実質排出量ゼロを目指すといったカーボンニュートラルを表明した。市でも令和4年（2022年）2月10日にゼロカーボンシティ宣言を表明した。ゼロカーボンシティの実現に向けて、市民の一人一人の協力が必要である。
- ・八王子環境市民会議では、地球温暖化防止のための取組みや里山保全活動を行っており、自然体験講座も開いている。環境市民会議に参加希望の方は、市の環境部環境政策課に連絡してほしい。

(質疑内容)

なし

③ DXについて

(説明内容)

- ・DXとは、「新しい技術を使って改革を進める」という意味である。また、トランスフォーメーションは、改革という意味と同時に、今までと形を変えていくという意味もある。
- ・DXの例として、回覧板を紙媒体からスマートフォンによる回覧に変えることが挙げられる。紙の回覧板では、各家庭に回るのに時間がかかる、といった課題がある。スマートフォンによる回覧にすることで、一斉に情報発信できるとともに、情報の受け手も次の人に回覧する手間が省けるため、情報を受け取っても良いという人が増える可能性がある。また、会合等の出欠確認も、手作業での集計の手間が少なくなり担当者が楽になるなどのメリットがある。
- ・これまでのやり方を変えて便利にすることで、加入者を増やすとともに、加入者の会合や行事への参加をしやすくし、町会・自治会の活動を活発化させ、持続可能なものにしていくことが大切。
- ・デジタル技術を活用することで、すべてがうまくいくというわけではなく、効果的に活用することが重要。そのためスマートフォンを使えない人への配慮もあわせて行う必要がある。DXのスタートとして、お金をかけずにスマートフォンなど皆さんが今持っているものを活用するところからはじめていただきたい。

(質疑内容)

- ・八王子市でも回覧板のデジタル化を進めていくのか。
⇒回覧板だけでは情報が行き届かない方もおり、現状のままでは良くないと思っている。デジタル化の計画はあるが、具体的には決まっていない。(デジタル推進室)

(4) 次回の検討に向けて

第4回推進会議の進め方、自主活動の実施希望について確認をした。質疑の内容は、以下のとおり。

- ・次回のアクションプランの検討に当たり、第3回推進会議では参加者が所属する団体に対して課題や良い取組について確認した方が良いとの意見があった。このような活動を次回までにした方が良いというアイデアがあればいただきたい。(未来デザイン室)
- ・第4回推進会議の議題は、アクションプランの検討であり、役割としてはファシリテーターと板書係になるかと思う。例えば、同様の会議を実施しているみなみ野中学校区では、1グループで意見交換をしているのだが、南大沢中学校区では本日と同様に2グループで会議を進めるのか、もしくは1グループで進めるのかご意見を伺いたい。本日、ファシリテートされた方は、進めやすさ等はどうだったか。(エックス都市研究所)
⇒人数的には、本日と同様の7～8名の規模の方が意見を出しやすいかと思う。
- ・第4回推進会議も本日のような形式で進められるよう、事務局の方で整理する。自主活動の希望はあるか。(エックス都市研究所)
⇒ヒアリングと言っても何を聞いたら良いのか見えていない状態で聞きに行っても仕方がない。
⇒東京都住宅供給公社や都市再生機構が、南大沢に関して持っている考え方やプランを示してもらってからでないとヒアリングはできない。

⇒都市計画などに関わることであるため、私たち自ら情報収集するというより公的な機関から情報提供してほしい。

⇒2年ほど前に、東京都住宅供給公社の当地区の担当課長などとお話をしたことがあるが、かなり協力的に対応してもらった記憶がある。最初に考え方を聞いてから、その次にヒアリングという方がやりやすいのではないか。

- ・自主活動のヒアリングの想定として、所属団体にどういったアクションが推進計画に入っているかを意見として聞いてきてもらい、第4回推進会議の中で皆さんが代表者として意見を出してもらうということも考えられると思っている。(エックス都市研究所)

⇒意見を聞くにしても具体的なものがないと、聞かれた方も困るのではないか。

⇒今回の意見を整理する時間を持つ必要がある。今回、色々な課題や方法が意見として出ており、それを踏まえて推進会議の中でどういったことを団体に聞く必要があるか、という共通認識がないと次には進めない。南大沢は東京都が関わっていることもあるため、公的な機関にヒアリングをしてもらわないと、一般市民がヒアリングをするのは難しいのではないか。聞いてきた内容を情報提供してほしい。

⇒東京都は、「南大沢駅周辺地区まちづくり方針(案)」の意見募集のなかで、2025年にアウトレットパークの借地契約が終了すると記載しており、この意見募集が9月15日(木)までとなっていた。このようなことも含め、分からないことがいっぱいありすぎて、団体に持ち帰っても何について話せばよいのかわからない。

- ・本日、議論の中でも取組について意見があったため、一度整理して、第4回推進会議の中で必要な取組をピックアップし、その取組を進める上で必要な場所にヒアリングとするということで良いか。(未来デザイン室)

⇒良い。

3 情報交換「みんなにシェア・みんなでシェア」

- ・南大沢市民センターまつりを10月1日(土)、2日(日)に開催する。1日は、骨密度測定会、血管年齢測定会、子ども向けの「むかしあそび体験」等を行い、2日は舞台発表を実施する。是非、お子さんと一緒にお越しいただきたい。(南大沢保健福祉センター)
- ・南大沢中学校で実施しているどんぐり分校(いきいきサロン)の活動で、9月28日(水)にどんぐりまつりを開催する。会場は南大沢中学校の体育館で、マルシェと盆踊りを行う予定である。また、南大沢5丁目の活動にはなるが、「いずみアミーゴ」という編み物を通じた取組を第一水曜日に子育て広場で行っている。こういった取組を通じて、つながりの機会を作っていきたい。(高齢者あんしん相談センター南大沢)
- ・「八王子未来デザイン2040(原案)」のパブリックコメントを9月16日(金)から10月16日(日)まで行っているため、ご意見があれば意見書を未来デザイン室に提出してほしい。(未来デザイン室)

4 閉会

次回の地域づくり推進会議の日程等を確認した。

- ・第2回推進会議の議事概要(案)の修正があれば、9月22日(木)までに未来デザイン室に申し出てほしい。(未来デザイン室)

- ・ 第4回推進会議は、令和4年（2022年）11月12日（土）9：30～12：00 南大沢小学校 2階ランチルームで実施する。（未来デザイン室）
- ・ 市では周知啓発動画を作成しており、第4回推進会議の様子を撮影したいため、映ることが難しい場合は申し出てほしい。参加者へのインタビューも行いたいため、後日個別に調整をさせていただく。（未来デザイン室）
- ・ 本日見学いただいた久保田様について、引き続き推進会議に参加したいとのご意向を確認した。参加者となっていただいてよろしいか。（未来デザイン室）
⇒参加者の拍手により賛同を確認。

以上

南大沢中学校区のありたい姿

スタート

中学校区別ws結果

☆だれもがつながれる街 南大沢

☆生きた声や今ある資産を活かし、つながりづくりの再チャレンジ

ステップ② 改めて、一言で！

ありたい姿 <具体的なイメージ>

ステップ① ありたい姿を深堀。もう少し詳しくイメージしてみる

将来ビジョンの着目点

つながるとは？

昔は子供でつながっていた

子どもを中心にしたコミュニティ

課題

世代間のつながり

問題に気付いていない

関わらなくても生活できる

あるべき論

町会と3~4丁目の融合

多くの世代の交流場

多世代

連絡協議会“連合会”が必要

自治会

子どもの数増

必要なもの・こと

おもしろいコト

つながるための情報

つながるための仕組み

イベント機会を増やす

共同のイベント

楽しい

情報発信力!!

若者も魅力を感じる

インスタ映え

場所・手段

旧 拠点クリーニング店を利用

奇跡の商店街

明日見らいふ南大沢への呼びかけ

太平公園

夏祭

公園の有効活用

祭りでにぎわいを！

防災訓練

人のつながり

場所のつながり

南大沢中学校区のありたい姿

スタート

中学校区別w s 結果

- ☆だれもが繋がれる街 南大沢
- ☆生きた声や今ある資産を活かし、つながりづくりの再チャレンジ

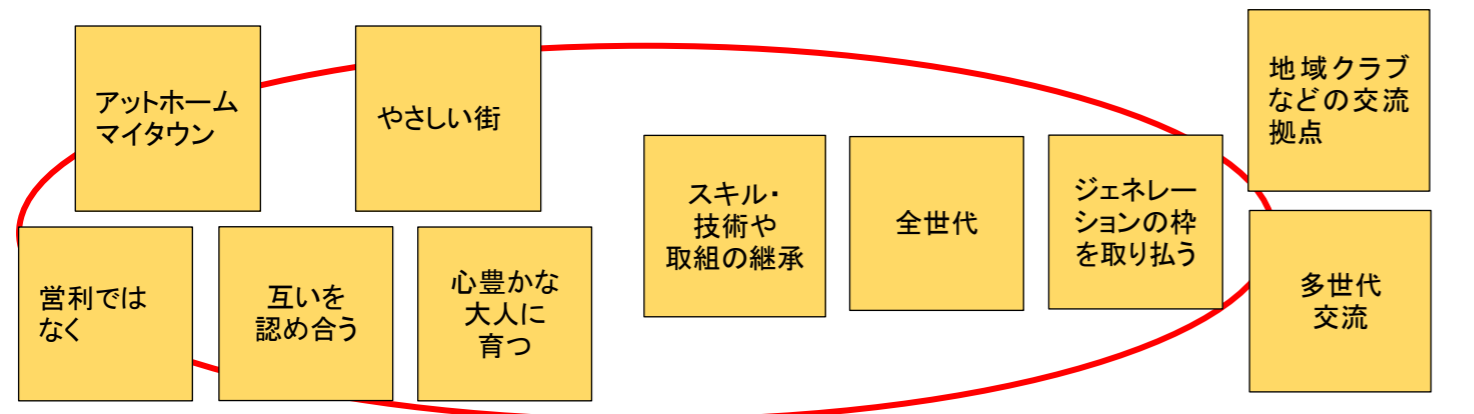
ステップ② 改めて、一言で！

認め合うやさしい街 アットホームマイタウン

ありたい姿 <具体的なイメージ>

ステップ① ありたい姿を深堀。もう少し詳しくイメージしてみる

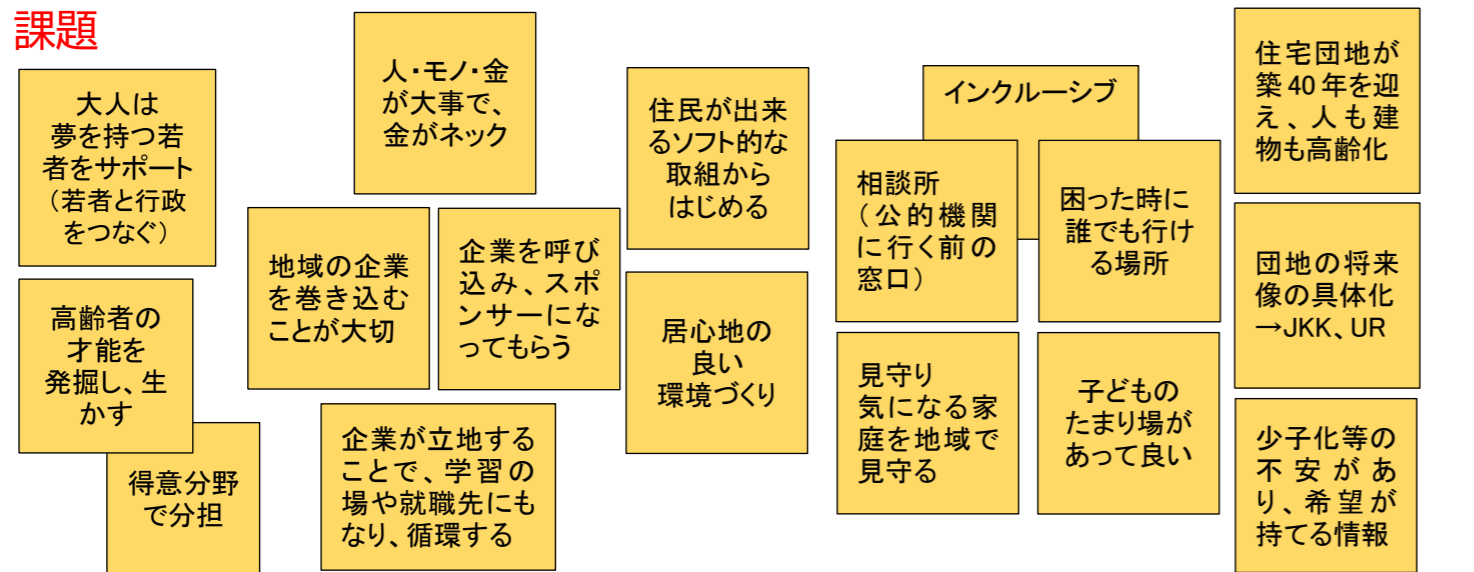
将来ビジョン



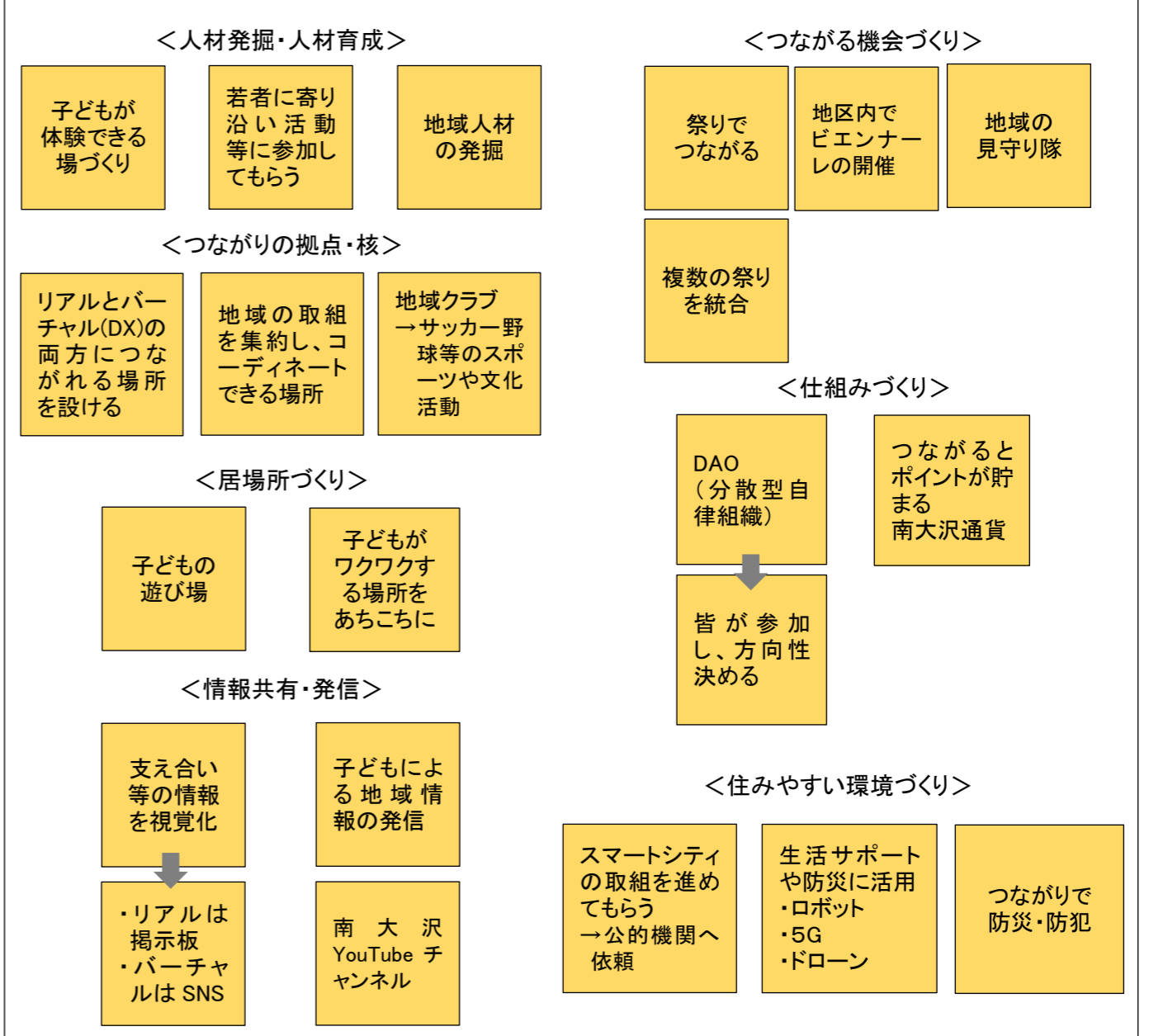
現状

他地域からの転入者の満足度が高い

課題



手法



南大沢中学校区のありたい姿

スタート

中学校区別w s 結果

☆だれもがつながれる街 南大沢

☆生きた声や今ある資産を活かし、つながりづくりの再チャレンジ

ステップ② 改めて、一言で！

(仮)認めあう優しいまち アットホームマイタウン

ありたい姿 <具体的なイメージ>

ステップ① ありたい姿を深堀。もう少し詳しくイメージしてみる

“だれもが” = 多世代、多様な人

未来につながる、継承

つながる手法

掲示版、SNS などにより、情報の見える化

すでにある活動をつなげる